いきものふれあいの里　「陶史の森」だより

土岐市ネイチャーセンター
(☎59-5144)

川辺の大型トンボ　ーヤマサナエー

遊歩道を歩くと、6㎝ほどの緑色の眼、黒地の胸に黄や緑色の線が特徴的なトンボ、ヤマサナエに出会います。サナエトンボの仲間です。日本のサナエトンボの仲間は27種がいるとされ、種類によって胸の模様や尾の太さ、生殖器官の形が違います。ヤマサナエは、胸の側面に黒2本と黄緑色の線があり、背中に黄緑色のL字型のきれいな斑紋が目立ちます。尾に見える腹部は太めで先が膨らんでいます。先端部には、雄には雌と連結するためのハサミのような付属器、雌には産卵の器官である産卵弁があります。トンボと言えば飛び回っている印象が強いですが、ヤマサナエは川辺の石や枝先などに止まって縄張りを見張っていることが多いので見つけやすいです。

トンボの生息環境である砂泥(さでい)底の緩やかな流れがある場所は荒らされやすいので、最近は個体数の減少が心配されています。陶史の森は自然保護区となっており、動植物(昆虫や魚も含む)の採集は禁止されています。今後も園内の自然環境や動植物の保護にご協力をお願いします。



教室のご案内

ミツバチ教室（要申込：定員10家族）
6月16日(日)　午前9時～11時30分
持ち物：白色の服装、帽子
蜂アレルギーの方はご遠慮ください。

バードウオッチング（自由参加）
5月26日、6月23日の日曜日
午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堤防

トキハクプロジェクト　新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

第1回　移転に向けて

新博物館の建設に向けて、4月から休館となった美濃陶磁歴史館。ここには4人の学芸員が在籍しています。学芸員は美術館や博物館の展覧会を企画する人、というイメージが強いからか「休館になったら、何もやることがないんじゃない？」という声が、ちらほらと聞こえてくることも。そこで、今年度のこのコラムでは、新博物館整備事業「トキハクプロジェクト」の進捗とともに、あまり知られていない学芸員の仕事や、調査研究を進めている地域の歴史などをお伝えしていきたいと思います。

休館した歴史館の中では、現在、引越しの準備を進めています。令和10年にオープン予定の新博物館は現敷地に建つことから、膨大な収蔵品を一旦別の保管場所へと移さなければなりません。今年の夏頃に控えた移転に備え、3600件を超える美術工芸品や1万5千箱の発掘出土品、500箱の古文書、民具など、収蔵品の現状把握、複数の仮保管場所への振り分け、梱包作業を行っていきます。当館が44年かけて収集してきた資料のすべてを、迷子になることなく確実に新館へと引き継ぐためのお仕事です。


昔の暮らしを伝える民具類


古文書が保存されている箱